

令和7年4月

第5号

高島市議会

真志会 広報

真志会とは

高島市議会において、澤本長俊、磯部亜希の二人で、令和4年2月に新たに結成した会派です。“志をまっすぐに”という思いで、真志(まごころ)を込めて活動していく”そんな想いで名付けました。



ごあいさつ

先の選挙で、みなさまにご支援いただき、私たち二人ともに当選することができました。この感謝の気持ちを胸に、これからも懸命に議員としての職責を果たせるよう取り組んでまいります。高島市議会の議員構成は変わりましたが、磯部亜希、澤本長俊は、以前からの会派である「真志会」として変わらず二人で活動していくことになりました。これまでに経験してきた体験や学びを生かし、みなさまのご意見や想いをしっかりと市政に反映していけるよう努めてまいります。これはどうなっているのか、こんなことで困っている等のお声を私たちに聞かせていただけると幸いです。一緒に悩み、考えていきたいと思っております。今後どうぞよろしくお願いいたします。



磯部 亜希（会派代表）

マキノ町在原在住 3期目 予算常任委員会委員長 議会広報広聴委員会委員長 産業建設常任委員会 議会運営委員会



澤本 長俊

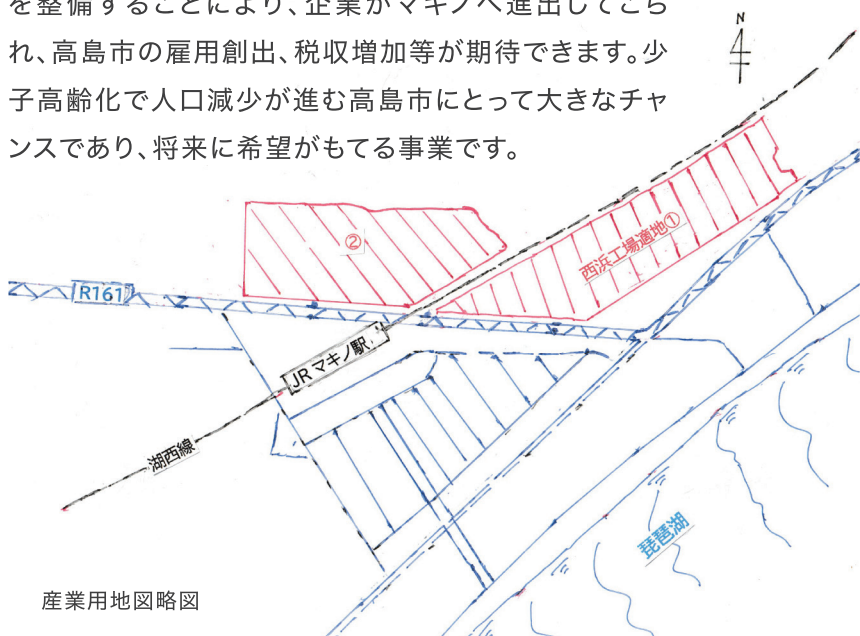
朽木市場在住 6期目 監査委員 議会運営委員会副委員長 予算常任委員会 総務常任委員会 議会改革推進会議

TOPICS

トピック1

滋賀県産業用地開発事業に、高島市（マキノ町西浜地域 約17ha）が選定！

県が主体となって、市町と連携して大規模な産業用地を整備することにより、企業がマキノへ進出してこれ、高島市の雇用創出、税収増加等が期待できます。少子高齢化で人口減少が進む高島市にとって大きなチャンスであり、将来に希望がもてる事業です。



産業用地図略図

トピック2

看護師、助産師の就業支度金貸与制度が復活！



看護師等の資格をもっている方が高島市民病院で勤務される際、希望者には支度金が貸与されます。

金額は、初めて市民病院に勤務される場合は150万円で、5年間従事されると全額免除、3年以上5年未満だと3/5免除となります。過去に看護師等（正規職員）で市民病院に勤務したことがある方は50万円で、3年間従事されると全額免除となります。

現在、市民病院に勤務中や、50歳を超えている等、除外とされる場合もありますので、詳細については、高島市民病院の事務部病院総務課にお問い合わせください。

お問い合わせ

高島市民病院 事務部病院総務課

0740-36-0220(代表)

R7年3月

代表質問 澤本 長俊

詳細は
こちらから

議会中継の様子
(動画)



JR 湖西線の強風対策と 国道の整備について



市長として独自に施策、方法を考えているのか。

市独自の取り組みとしては、繋がりが大事だと思っているので、積極的に意見交換、要望活動を展開し、関係性を強化していきたい。

市長

質問を終えて

最も重きに置き解決を提言されてこられていたので、特別な施策をお持ちであると期待したが、これまで同様の活動をしていくということであった。少し期待外れではありますが、粘り強く要望活動を展開することは、大切なことであると考えてるので、しっかり取り組んでもらいたい。

いちご農園補助金未返還事案について



直ちに刑事告訴するのか。

これまで、客観的な証拠は集まっておらず、刑事告訴する段階に至っていない状況です。

市長

質問を終えて

再発防止のため、原因究明は必要なことであるので先入観を持たず、客観的事実のもと、しっかり進めていただきたい。刑事告訴についても、それに耐えうるだけの証拠集めなど、しっかりと準備したうえで進めていただきたい。

緊急課題はどう進めるのか！

新しいごみ処理施設の整備について



現在まで進めてきている泰山寺で建設すると考えてよいのか。

現環境センター(途中谷)での建替えの実現性を検討するとともに、建設規模等によるコストダウン等を検証し、進めてまいりたい。

市長



判断を延ばせば市の負担が増えていくことは理解されているか。

補助金の関係もあるので、延ばさないよう検討し進めます。

市長



防衛省補助金について、計画が大きく変化したら、その事業は新たな計画になるという認識を持っているか。

建設地が変更といった変化が生じた場合は、全て新しくしなければならないと認識しています。

市長

質問を終えて

客観的なデータや資料をもとに判断するということであるなら、年末年始に我々が広報させていただいた内容で、答えは出ていると考えるので、一日も早く、賢明な判断をしていただき、現計画(泰山寺)を進めていただきたい。

R7年3月

一般質問 磯部 亜希

詳細は
こちらから

議会中継の様子
(動画)



子ども達が地域について考え、意見を出していくことが高島市の未来を拓いていくのではないか

10年、20年先の高島市の未来を考えると、これからおそらく担っていくであろう子どもたちが、まちづくりや行政について関心をもつことが大切だと考えています。種をまき、育てていく、その環境を整えることが今の私たち大人がすべきことだと思い、質問しました。

●子ども・若者の意見表明の場、その意見を市政に反映させていく体制づくりについて

→私が思い描くこども会議のようなものを目指すという方向性については市も共通認識をもっていることがわかりました。そして、子どもたちが意見を言いやすい体制を緻密に考え、まずは「こどもの居場所づくり」について来年度から検討をはじめめる協議を行っており、目指す方向性について前向きに検討をしていくということです。

●小学校高学年から、中学生、高校生による議会傍聴について

議場へ来て議会で議論する様子を自分の五感を感じ取ることは、子どもたちにとって大きな体験となり、議会や行政への関心を高めるきっかけとなるという考えから質問しました。

→現状において考えらえる課題もあるが、希望があれば助言し、基本的には学校主体で教育活動を選んでいくものだと考えているとのことです。

●第三者機関の規定を含めた子どもの権利を守るための条例制定について

→関連機関との良い仕組みの構築に向けて協議を深めていきます。時間が必要だが、前向きに検討していきますという答弁でした。

その他の質問(議会だよりに掲載)

●地域課題への取り組みについて行政ができることは何なのかについて

起業型等の募集内容による地域おこし協力隊を検討してほしいとのことに対して、検討をしていくという答弁をいただきました。危険空き家についても質問し、法改正に伴い、管理不全空家等の把握による認定基準を定め、体制を強化して取り組むとのことでした。詳細は議会だよりをご覧ください。